

東京五輪出場内定 競泳の高橋航太郎2曹が地元に来訪

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は4月26日（月）、東京五輪競泳男子800メートルリレーの代表選手に内定した自衛隊体育学校の高橋航太郎2等海曹の表敬を受けた。

高橋2曹は静岡市清水区出身。当日は母校の静岡東高等学校で壮行会に参加し、恩師や後輩たちから熱いエールを受けた後、静岡地本を訪れた。

副本部長の大串秀樹事務官、募集課長の山本健太郎2等陸佐と面会した高橋2曹は「五輪まであと3カ月。これから合宿もあるので、その前に実家に帰ることができてよかった」と笑顔を見せた。

また、入隊した頃の思い出や、内定を勝ち取った大会での泳ぎなどについて話すとともに、母校訪問や子供向けスポーツ記事の取材を通して「頑張っている若い人に、自分を見て夢を持ってもらえたら」と、後に続く静岡出身アスリートにも期待を寄せた。

最後に、大串副本部長と山本2佐から熱い激励を受けた高橋2曹は「目標はメダルをとること。世界の選手と戦えることにわくわくする」と大舞台に向けた意気込みを語った。

静岡地本は、今後も静岡県出身隊員の活躍を精力的にPRし、地元との懸け橋として活動していく。



「天までとどけ」 ブルーインパルスの紙飛行機で隊員とふれあい

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は5月1日（土）と2日（日）、リパティリゾート久能山（静岡市）で行われた「久能山フエスティバル2021」において広報活動を実施した。

5月の連休中に鉄道イベントやミュージシャンによるライブステージなどが行われ、自衛隊は駐車場に広報ブースを開設。陸上自衛隊の中型トラックと偵察用オートバイ、陸・海・空自衛官の制服のほか、過去の災害派遣活動の写真パネルや災害派遣に出動した際に隊員が食べる携行食、制服の左胸に輝く全48種類の防衛記念章などを展示した。

自衛官採用制度説明コーナーでは、採用種目や職種などを分かりやすくまとめたチャートの前に広報官が説明を行い、自衛隊に馴染みの少ない来場者が自衛隊を知ることができる場を設けた。

また、子供向けに「ブルーインパルスを飛ばそう」コーナーも設置。ブルーインパルスの柄が印刷された折り紙で子供たちが紙飛行機を作成し、作る喜びや飛ばす喜びを感じていた。

来場者からは「去年はコロナの影響でこのようなイベントがなかったので参加できて嬉しかった」「気さくな隊員の方々と話をして、遠い存在だった自衛隊を身近に感じた」といった感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後もイベントに参加して自衛隊の存在を身近に感じてもらおうとともに、子供たちの憧れになれるようPRしていく。

